

2015年2月10日

NHK 会長 萩井勝人 様

同報

NHK 副会長、専務理事、理事各位

NHK 経営委員会 委員長、委員各位

2月の定例会見における萩井会長の発言に関する申し入れと質問

NHK を監視・激励する視聴者コミュニティ

共同代表 湯山哲守・醍醐 聡

<http://kgcomshky.cocolog-nifty.com/blog/>

萩井会長には NHK 会長という重責を担われ、日々、ご多忙のことと存じます。

去る 2 月 5 日に開催された標題の会長会見において記者から、戦後 70 年の節目にあたって NHK は「従軍慰安婦」問題を取り上げる可能性はあるのかと聞かれたのに対し、貴職は、この問題に関する政府のスタンスがなかなか見えない、夏にかけて政府のきちとした方針が分かるのがポイントだろう、という趣旨の発言をされたと伝えられています。

このような発言は、もはや、放送の自主、自立に対する外部からの干渉、介入というより、**NHK が進んで政府の方針に順応することを明言した放送の自主、自立の放棄宣言に等しい**と言わなければなりません。

そこで、当会は以下のような申し入れと質問を致します。

申し入れ

1. こうした発言は、NHK の特定のテーマに関する番組編成は、そのテーマに関する政府のスタンスを忖度しながら定めることになるという貴職の意向、考え方を会見の場で表明されたものと言えます。

しかし、いうまでもなく NHK はいかなる権力、特に時の政権からの独立を生命線とする公共放送であり、国营放送でも政府広報機関でもありません。

このような公共放送のイロハをわきまえない貴職の上記の発言は NHK 会長として、あるまじき妄言であり、嚴重に抗議するとともに、謝罪の上、直ちに発言を撤回されるよう申し入れます。

2. 上記のような貴職の発言は、約 1 年前の会長就任会見で貴職が語られた「政府が右というものを左とはいえない」という発言と同根のものであり、多くの視聴者や識者から批判をあげた、公共放送の長にあるまじき愚かな見識が貴職の脳裏に染みついていることを証明したものです。

NHKの信頼を貶めるこうした言動を平然と繰り返す貴職に残された道は会長職を辞すこと以外にありません。当会は一日も早い貴職の辞任を強く要求します。

質 問

1. イギリスのタイムズ紙（電子版）は、入手したNHKの内部文書（国際放送用「オレンジブック」）を取り上げ、この文書の中で、NHKは原則として「従軍慰安婦」問題について説明を加えない、「強いられた」「性奴隷」といった用語は使わない、と記していると伝えました。

これについて貴職は昨年11月の会長会見で「オレンジブック」なる文書が存在することを否定されませんでした。そこで、伺いますが、「強いられた」という用語は使わないという指針は、安倍首相が国会答弁等で「強制的に集められた」「従軍慰安婦」はいないという見解を表明していることを考慮して作成されたものですか？

そうではなく、NHKの主体的判断でそうした用語を使わないことにしたのであれば、そうした用語採否の判断の根拠（NHKの歴史認識）をお示し下さい。

2. 前記の2月5日の会長会見における記者と貴職の質疑の様子はNHKのホームページの「NHKトップトーク」に掲載されていますが、「従軍慰安婦」問題をめぐる記者とのやりとりは一切、見当たりません。この部分を掲載しなかった理由をご説明ください。

上記の質問に対するご回答を2月20日までに別紙宛に文書でお送り下さるよう、お願いいたします。

以上